夕刊
磐城新聞
五月十七日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

愛鄉書狀の刊行に就て（一）

……島田君に答ふ……

齋藤利彥

島田春雄君が、數日に亘つて本紙上で本市制記念譜進本市名所繪葉書『愛鄉書狀』の刊行の爲にわざ／＼筆を執られた勞を心から感謝するものである。それに對し、僕も率直に述べよう。先づ常磐海岸鑑賞會の立場から、君の誤解を解き君の態度に言及して然る後本論にはいりたい

君の一文は、個々作品の內容に關する以外の問題は、全部僕一身で引き受けてお答へする

×

君と初めて逢つたのは、五月六日イワキサロンの『愛鄉書狀刊行座談會』席上であつた。福島民報の野澤氏の御紹介があつたので當該君を來賓として御迎へした。だが今日は、君を僕の仕事の妨害者として筆を執らなければならないのを遺憾とする

常磐海岸鑑賞會とは、常磐海岸（現在四倉－磯原間）の風景畫を其沿岸の會員へ頒布する畫會の謂である。昨年七月、常磐海岸沿線各町村長、各學校長、各銀行會社長、其他有志七十餘名の御後援を得て創立、會員二百二十名、其企劃、制作、外交、配達、集金等一切の働き手はかく申す齋藤利彥たゞ一人。而して今回の愛鄉書狀出版の事も、本會の副事業として企圖されたもので、他の方々は友人ではあるが、單に原畫の執筆者として僕の仕事を助けて呉れてゐるので、數々の助言は頂いてゐるが、決して本事業に參劃してゐない事を、他の諸作家の爲に言明して置く

從つて君の云ふ『在平美術家團体』とか『彼等』とか『――畫會美術家諸君』云々の言葉は當らない。當面の責任者は僕一人である

の寶玉

今日の訓へ

哲名　山人

人はあまりにひまでも、妄念妄想にとつかれて由なき災を蒙ることとなる、又餘り忙しいと、本來の面目が現はれて來ぬものである。故に不斷努めに力を入れると共に、たまには、風月の趣味を味ふ丈けの綽々たる餘裕がなければならぬ、子の曰く『小人閑居して不善を爲す』と

5月18日

△豐臣秀吉大陸政策廿五條を認む（大正二〇）△德川綱吉犬のために增稅（元祿九）△函館戰爭の榎本等官軍に降る（明治二）△英佛の國交斷絕、宣戰布告（一、八、三）

ほゝゑみ

佐分利晃

やさしいほゝゑみは
母の溫き愛撫にも似て
さびれた私の胸の中を
うるほしてくれる
ほゝゑみは
柔らかい春陽のごと
などやかに匂ふ愛の花よ
貧しい私の胸を飾る唯一

聞秩父宮御渡英（其ノ二）

珠雲　小野務平

一植筋向海西瀕
帝戴瑤冠迎國賓
王葉欽差全使節
日英交誼愈加新

春のかなしみ

忘航路

○灯に白く舞妓の頰の白粉の、眼にしみたる醉ひの淋しさ
○可愛（かなし）くも『すこしさしてね』とふゝみつゝ、頰にいでたる妓のうら若さ
○惡ふざけおとなしき妓が指先の、まつげ濡らしてよりにけるかな

「新しき土」と映畫輸出の可能（四）

小林生

新しき土は滿洲國でゐる そこに大和輝雄と、新妻光子との新生活が、心憎いばかり美しく現はされてゐる』このテーマ、實に日本に於ける現代潮流の最高を表現したもので、國內での議論ならばイクラでも勝手なことを言ひ得るかも知れないが、外人に最後まで見せて日本　宣傳するものとしては、恐らく空前にして絕後であると思ふ。日本に於ける『新しき土』は、彼是批評があるとしても、ファンク博士の本國獨逸に於ては恐らく興行百パーセントの大成功なるものと信じて疑はないものである

○

火山と地震、それは日本は、火山國である日本には大小の差こそあれ、地震があるときかされてゐる獨逸人から見れば、そこに驚くべき活きた火山と、夢想だになし得ない地震の光景とは、どんなにか觀客を引きつけるだらう。主人公の大和輝雄、これに扮する俳優に小杉勇である

講談　妖刀流轉（えうとうるてん）（89）

邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

男女の惡緣（三）

傳エ、大きな聲をしちゃア可けねえ、如何にお前が傳法でも、昨夜まで添寢をした亭主が、こんなになつたのを見たら定めしいゝ心持もしなからうが、これから先は傳五郞一人を大切にして心を迷はせねえ用心に荒い仕事をしたといふのも生命がけで傳五郞がお前を思つてゐる證據だ、心中立なら憎くはあるめえ、それとも亭主の敵だと裏切る氣なら裏切つて見な、可愛さあまつて憎さが百倍、お前も藤作同樣にあの世とやらへ立たせてやらう、萬事は此刀が物を言ふんだ、氣の毒ながら傳五郞がこう迄見込んだ上からは、お前は金輪奈落公乃のものだ、惡あがきをして貰ふめえせ』

燒つくやうな眼光でおもんをじつと見つめた、その顏の凄いこと、妖婦のおもんもこの時ばかりは顏の色を變へたが、最早斯うなつては逃れる事も出來ない

大島傳五郞がおもんを連れ、苦心慘憺人目をのがれて辛くも逃げ延びた落つき先がどいふと、秩父連峰中の笠取山、それも谷を渡り峠を越え、山又山の奧深くへ分け入つた森林の中、到底人の往來などが有る所ではない、老杉すく／＼と天を衝き、晝尚くらき深山の奧へ竹の柱に茅の屋根といふ文字通りの粗末な住居耳に聞ゆるものとては颯々たる松の風、谷を走る急流の音、夜になつては、狼の遠吠に梟か木兎か、怪鳥の叫びが木魂に響く、大變な所へ入り込んだものだが世を忍ぶ傳五郞にとつては屈竟の隱れ家

傳五郞が折々里へ出ては食料を手に入れて歸つて來るのだが、おもんは一歩も出る事を許さないばかりか逃走を恐れて自分の居ない時は手足を縛つて置くといふ具合、それ程迄傳五郞はおもんへ猛烈な執着を持つてゐる

對手は極惡人の傳五郞で一つ間違へば例の惡劍に物を言はせ、何時生命をとられるか解らないので詮方なく同棲をして居りますが、早いもので此山中へ潜伏してから半年も經つた

深山の奧で冬を越し、お紋は最う飽き／＼して了つたが何分傳五郞が目を光らせてゐるので何うにも成りません、いや／＼ながら其意に從つて居るものゝお紋は何うしても心から傳五郞を好く氣にはなれない、これは成れないのが當然で假令にせよ、板橋で勤めをしてゐる川竹の身を落籍して呉れ、一月でも半月でも夫婦になつてゐた亭主の藤作を眼前でこの傳五郞が殺してゐる、紛れもない夫の敵だ、その敵に身を任せてゐるのだから如何に妖婦でも良心を咎めるのは人情の左もあるべきところ

それはかりでない、おもんも傳五郞も知らずに居るが、おもんの情婦般若の權次も、この傳五郞ゝ爲めに百本杭で殺されて居る。して見れば二人の仇敵同志、圓滿に納まらう筈も有りません

而も惡緣と云ふか因果といふか、傳五郞はおもんに熱烈な愛を感じ、殆ど狂人に等しい振舞、流石のおもんもその執拗さに辟易いたし一日々々と傳五郞に對する嫌惡の心が强くなり、不快で堪らなくなつて來た

さあこれからが惡緣が敵同志の兇漢傳五郞と妖婦おもんとの恐ろしい葛藤が始まらうといふ、活劇のお話……

大塚の運動具 大特賣
◎在庫品の續く限り値上せず
野球グローブ 大人用 一、〇〇
バット 七〇〇
庭球ラケット 二、〇〇
野球用スパイク……特賣
野球ユニホーム一チーム御新調にはマーク……サービス
定評有る節抜ユニホーム、パンツ品は何んでも豐富に揃つて居ます。
平・銀座通り

御用命は 大塚
小店員……募集 十四、五才より四、五名
電話七七番

磐城の御みやげ品
名物 靈峰（みやま）羊羹 金十錢
姉妹品 柿羊羹。のり羊羹。
沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元 小川鄕驛前 平屋賣店

時代の要求 皆樣の足!!
尼子タクシーへも豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……。市內…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行＝直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目 尼子自動車商會 電話六四〇番

夜間診療
內科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
專門
胃腸 性病科 松村醫院
（平町南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）

ほねつぎ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四
神經痛ニオレンヂ
リウマチスパスタ

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戶線下館驛前（電話五五・三三九番）
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）
常磐線關本驛前（電話八二四）
常磐線四倉驛前（電話中潟五四）
久慈濱支店（電話四八）
小名濱支店（電話二三七番）
海上給油所（大津、平潟、江名濱）及油槽所

御食事とバーを兼ねた食堂
……トンカツ……
大衆食堂 京樂
平・銀座通り

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
「入院のお需めに應ず」
（看護婦及び見習看護婦募集）
齒科 口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
鈴木醫院
內鄕村高坂磐炭病院前

市制記念
カメラマンに捧ぐ!
1 東朝主催『寫眞競技大會』の懸賞募集は五月二十五日〆切であります。
2 五月十七日（午後六時より）マルトモホールに於て（東都一流技師）熊谷辰男氏の『原板の作り方と引伸の秘訣』の講演會がある
（詳しくは當店にて）
平市二丁目（電3）
西村屋藥局 カメラ部

耳鼻咽喉科
高柳醫院
平驛前（電三三六）
醫學博士 高柳博明
（入院應需 自炊ノ便アリ）

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 大岩俊雄
平町新川町十九番地
入院隨意 病室完備
木村病院
電話一六四番

新開院
重田眼科
眼科一般 眼鏡檢定
平驛前通り元福島貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平町田町一番地

平町田町（電話五三一番）
高久病院
內科 外科 耳鼻咽喉科 小兒科 花柳病科 レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄

外科、內臟外科、エッキス光線科
……新設……產婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣
平町田町
入院隨意
安齋醫院
電話四七五番

生花教授
池ノ坊 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

論壇

大平自治の擴充

地方自治などと云ふ事は差當り餘り人氣のある問題ではない。その辦一年の經費から觀ると今では地方自治体の仕事の分量は國全体のそれと匹敵するやうになつた。にも拘らず依然之を等外關心の埒外に置いて、地方青年の純真な功名心が之に對して燃ゑぬとなつたら結局我國はどうなる事か國の基は地方、地方自治の訓練の無い處にどうして眞の立憲政治が成り立ち得やう。知ると云ふ事は愛する事である、今や清新潑剌たる新興平市民として輝かしい明日を約束されてゐるお互が、所謂地方自治を愛する爲には、も少し町民が地方自治を諒解せねばならぬ故大森鐘一男の『自治制々定の顛末』によると明治十一年に大久保內務卿が『地方の体制等改正の議』と云ふ意見書を太政官に提出し初めて地方自治制の問題を議に上した時その理由書の內に自治と云ふ意義を表はす文句として『住民社會獨立の區劃』なる奇妙な言葉が使用されてゐる事程左樣に、國家に一定の領土を不可欠の條件となつてゐる如く、自治体の構成にも區劃、即ち若干の空間を要素としてゐる。故に近く隣村との合併に因て地域に一段の擴大をなす平町今次の市制實施は平町にとり一個の自治團体として眞に劃時代的の一大變革と謂はねばならない。惟ふに我國の自治制は獨逸の法學者グナイストの流れを酌む同國人モッセの草案を基礎として制定せられたもので、公民自治團体自治兩系統の思想を內容としてゐる。自治制々定の際政府が公にした『市町村制理由』にも『國內の人民各其自治を爲し政府之を統一して其機軸を執るは國家の基礎を鞏固にする所以なり。國家の基礎を固くせんとせば地方の區劃を以て自治の機体となし以て其部內の利害を負擔せしめざるべからず』とある。自治の意義自ら知るべきのみ、目前の平窪合併、平市實施に當面し、敎養ある一市民として自治精神の核心を把握し旋て市民の福祉開拓と延いては國利民福の增大に資せん事を祈念するものである。吾人は政治の實質が力を主とする時代が過ぎて、奉仕を中心とするやうになつた最近の傾向に於て地方自治制と云ふものは政治の內で極めて大切な地位を占むべきものと確信する意味に於てまさに爾せねばならぬと信ずるものである

創立以來二十有餘年 偲ばるる先人の苦闘

平町外二ヶ村 水害豫防組合解散の夕

平、內郷、飯野の一町二ヶ村に跨る耕地保護上遠く藩政時代からの惱みを拔本塞源的に排除すべく大正元年十月創立以來前後四半世紀の長年月と實に二十六萬圓の大資を投じた平町外二ヶ村水害豫防組合の事業は先人の苦闘空しからず先年既に豫期の完成を見、去る二月中解散したが組合では成立以來二十四年其の間數次の災害に遭遇の疲弊憫廢其極に達し縣、郡補助の申請、陳情に際しての援助に待つもの頗る多く一面亦組合員の協力一致堅忍持久を以て組合事業の達成に努めたる結果で組合事業に關與したるもの及議員の勞を多とする意味で一昨十五日午後二時から住吉　本店に創立以來の關係者木村元代議士以下有志三十餘名を招ぎ、慰勞の晩餐會を催し、席上組合に關する種々の追憶等に初夏の一宵を歡談し合つた

本組合事業は大正六年度より改修に着手し爾來年度縣費補助を受け工事を施行したるも其の間災害の爲め工事を妨げられたること數回に及べり、昭和八年度に於て工を竣り之に要せし總工費實に二十五萬八千餘圓、縣、郡補助八萬八千餘圓を差引其の殘額十七萬圓餘は組合員の負擔に屬し土地一反步五十五萬圓餘に當れり、今創立以來の歲入出總額を擧ぐれば左の如く各年度に於ける經費區分は

歲入
反別割　四一、七二七圓
夫役割　八三、〇七〇
補助　八七、三六〇
其の他　八五、七九三

歲出
管理費及會議員　三三、三〇一
事業費　一八四、八〇〇
公債　一八、六三八
其の他　二八、四七七

と云ふ尨大な額に上つてゐる

『平市』の諮問案可決

縣の會田屬を招き けふ午後から町會

平市制實施に伴ふ內務省並に縣の諮問案
一、平市設置に就き內務大臣に對する意見答申の件
一、平市制設置に就き村有財產處分に關し縣知事諮問に對する答申の件

を議決する平町會は今十七日午後一時から縣地方課會田屬臨席の下に開會、滿場一致可決直ちに夫々答申した、尙平窪村でも昨十六日開き平町同樣の議決をなした

答申書

昭和十二年五月十四日內務省福地第二十四號を以て御諮問に係る福島縣石城郡平町及平窪村を廢し其の區域を以て平市を置かるるの件御諮問の通り當町會に於ては異議無之

右意見及答申候也

昭和十二年五月十七日
平町會議長　野崎滿藏

內務大臣 河原田稼吉殿

答申書

昭和十二年五月十五日福島縣達第百二十八號御諮問に係る平町及平窪村を廢し其の區域を以て平市を置かるるに付町有財產及之に關聯する權利義務の一切は之を平市に歸屬せしむるの件御諮問の通り當町會に於ては異議無之

右意見及答申候也

昭和十二年五月十七日
平町會議長　野崎滿藏

福島縣知事 伊藤武彥殿

金成淺治氏再選さる

けふ好間村長選擧村會

好間村の村長選擧村會は今十七日午前十時開會、滿場一致で金成淺治氏再選に決定、同十一時閉會した、氏はこれで村長四期をつとめ今後の活躍を期待されてゐる

平局運動部役員

平局では此程今年度運動部役員を左の如く決定

(野球部)主將酒井利一郎　副佐藤傳一郎　(庭球)主將高久鐵夫　副阿部保正　(弓道)主將白石藏市　副永山浩氣　(卓球)主將齋藤久美子　副大平ハナ

平市制記念 愛鄕書狀

來月十五日發賣

齋藤利彥氏の努力による常磐海岸鑑賞會の市制施行記念躍進平市風景愛鄕書狀(四色刷版三度刷オフセット一度刷)は愈よ來る二十日豫約を締切り十五日を以て發賣するが八枚一組十五錢の廉價で時節柄最も機宜の試みであり各方面の贊同を博してゐる

講師を招いて 軍事思想普及

磐中、平商で記念講演

來る二十七日の海軍記念日に際し磐城中學校では午前中、平商業では午後から記念講演會を催するので縣では橫須賀鎭守府へ講師派遣方を申請した、縣下各中學校でも同樣講演會を望んでゐるが、演題は『躍進日本婦人の力』『國防上より見たる海軍』『海軍と國防』『將來の海戰について』『我海軍の特異性』等を希望してゐるものが多い

海軍記念日

植田町會

植田町會を來る十七日午前九時より召集左の諸件を附議

植田町大字區長及區長代理推薦　町役場廳舍改築

無火災に輝く四組

─縣下消防組頭大會終る─

十六日白河第一校で開かれた縣下消防組頭大會で表彰された郡下の優良組員並に無火災組左の如し

優良組員＝川前小頭永山繁美　平消防手金成泉一郎　小名濱小頭杉原正榮　三阪同小泉喜一　豐間同遠藤專　植田消防手松村淺藏　勿來組頭小松章

無火災組＝永戶　鹿島　磐崎　渡邊

佐藤氏當選

植田町佐藤德次郎氏はこの程米穀自治管理委員に當選した

殘るは僅か十名

小學卒業兒の斡旋に 平紹介所最後の努力

平職業紹介所の小學兒就職斡旋數は、はや百二十一名(うち女四十名)に上り殘る十名を今月一杯で片づけるべく最後の努力中で昨年の合計八十名に比し成績がよいので張り込んでゐる

今年の申込數は約百八十名に上つたが、このうち約五十名は家庭の都合、家事手傳、緣故就職等で斡旋申込みを取消したものである

短刀青年に六ケ月

既報─口論の末街頭で短刀を振ひ相手を突刺し瀕死の傷を負はせた小名濱町竹町佐川忠良(一九)假名─は今十七日平區田中判事から求刑通り六ケ月(但未決拘留二十日間通算)を言渡された

植田忠魂祭

植田町の忠魂祭は十四日午前十時より植田町八幡神社境內に於て執行したが、參列者は傷痍軍人を初め出征軍人遺族の外町村有志、在鄕軍人會靑訓生、小學校生徒等、式は神式と佛式とに依り正午終了したが天氣よく人出數百を算した

稅金滯納で 村議失格

永戶村藁谷市藏氏は去る十一日の村會議員改選で當選

職業紹介所長會議

けふ日立製作所視察

縣下職業紹介所長會議は既報の如く一昨十五日午前八時から湯本町役場に開催、縣から岩瀨社會課長錦織屬並に求人側として磐炭、入山、古河、昭和人絹、大日本炭礦各事業者約二十餘名出席

(協議題)國庫補助交付の件外二十九件
(談話題)除隊兵就職斡旋打合會 件外十一件

を附議、求人側として磐炭から提出の

(談話題)出稼人の保護組合を本縣下にも設置して職業紹介所と密接なる連絡を保つこと、身体檢查の嚴格、思想狀態に重點を置くこと

の三件について種々今後の提携を懇談、第二日目の昨十六日は磐崎、入山、小名濱、昭和人絹を視察、更に十七日は日立製作所を視察

小田技師視察

農林省港灣技師小田賢郎氏は數日前四倉港を視察、更に今十七日は板谷平土木監督所長の案內で江名、豐間、仲の作小名濱の各港を視察歸京した

歸らぬ伜

山形縣南村山郡本澤村長谷堂遠藤惣吉長男惣治郎(三〇)は一昨年十一月十六日炭礦で稼いで來ると稱して出かけたまゝ音信不通、本年度簡閱點呼に當つてゐるので搜して欲しいと十七日惣吉から平署に搜索願

無免許で事故

十六日午後一時頃小名濱町橋本馬上善一方雇人桑名義夫(二二)は無免許でトラックを運轉、安達郡二本松町成田地內縣道を疾走中同町裏町電報配達夫阿部武(二六)に追突要一週間の擦過傷を負はせた

產業組合新設

渡邊村瀨峯、青谷第一、同第二の農事實行組合が此程產業組合法に基いて設立された

其頃の町議戰を顧る

現在の約六分の一に過ぎなかつた 級別掉尾の有權者數 (6)

○△生記

愈々あと一週間に迫つた

大正十年五月二十四日の本紙記事

今月二十日過ぎを以て一層の激甚を加ふるものと豫想された平町議戰は、各自大に自重加發所謂虎視眈々として極めて思慮ある愼重戰を進行中と見へて最後の決戰日迄には今後僅々一週日を剩すのみなるに拘らず、何等表立つた展開が見られない、乃ち其れ丈け底氣味惡い道理で當日に於ける蓋あけの結果は抑どんなものであらうか、平町議(二級)選擧下馬評綴錦を次に記して見やう

▽永山和平氏(久保町)所謂無人の境を行く獨り舞台なれば首位の當選を以て疑なかるべし

▽漆畑元吉氏(田町)平町會の淸涼劑として氏を迎へんとする一部の決心なかなか侮り難きものあり、今後甚だしき番狂せなければ當選確實

▽中野甲藏氏(鍛冶町)三井常松(二丁目)眞木隆四郎(南町)水竹柳助(紺屋町)酒井國三郎(南町)諸氏の當選は蓋し既定の事實ならんも此際油斷せぬに優る用心はなかるべし

▽馬目雄次郎氏(田町)所謂安全候補の中間帶を行きつつあり、氏を擁する田町青年の熱心によつて全然當選の埒外に一蹴せらるゝ如き事あらざるべきも尙ほ健鬪は要なしとせざる人なるべし

▽新田目善次郎氏(番槌小路)今の處樂觀に値する得票無きが如きも石城政友の大御所に於て何とでもなるべき候補者のやう取沙汰しされつつあり

▽柏原幸次郎氏(三丁目)消防關係にて頗る優勢、運動また極めて要領を得つつあるやうなれば大した障碍の起らざる限り大丈夫ならんと觀測さる

▽遠藤林松氏(長橋町)前稱漆畑氏と密接不離の關係に在る人物、チエルシヤの賢とコンコルドの哲とが大西洋を距てゝ相呼應した如く平町會上兩者の共鳴を見んとするは恐らく町民一部の嘲笑であらう、根據地に於ける前人氣殊の外よろし

▽吉田定太郎氏(新川町)尙は一と息の奮鬪を要すべし

▽芸澤久一郎氏(胡摩澤)餘り話題に上せられぬが隱然一勢力をなしつつありとか

▽佐藤作平氏(紺屋町)鐵道方面より意外の收穫ある由、少くとも有卦に入りつつあるも決して油斷ならぬ形勢に在り

(此項未完)

バス、列車と衝突

乘客四名重輕傷

雷雨のはげしかつた十六日午後零時五十分頃平町二丁目乘合自動車部方運轉手原田猛(二五)が數名の客を乘せて內鄕村宮金坂地內踏切りに差しかゝつた際折から驀進して來た貨物列車と衝突自動車は約三間先に顚覆、乘客左記四名は顏面、頭部手足に重傷を負つた

平町月見町丸本家具店職工中村龜太郎(三二)植田町佐糠酒之進(六二)內郷村高坂磐城炭礦坑夫山口富榮(三〇)同村瀧鐵道員妻新妻よう(四二)

健康保險醫指定

小名濱町本町土井利明氏は此程健康保險醫に指定された

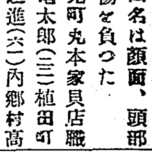
天氣豫報

(小名濱測候所發表)

今晩は北西の風晴
明日は南の風曇

十八日
滿潮　前九、三五　後一一、三五
干潮　前四、二五　後四、二五

火曜　四　乙巳　月　赤口　九　建　角宿
新五月十八日



說明者　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神宮館

▲一白　心の動搖を防ぐべし誘惑に乘れば損失あり▲二黑　意外の利得に惠まるゝ幸運の日歸口に注意▲三碧　元氣わうせいにして奮鬪の功大なり飮食に注意▲四綠　努力次第にて面目も一新し地位も高まる日▲五黃　一步一步と效果の現るゝかきやうに踏入る不安日▲六白　何となく忩々しく苦心の加はるべき不安日▲七赤　しつれつ惱みの多き日爽氣を養ひ後日を期せ▲八白　泰然自若とかまへて本分に力を盡せば向上す▲九紫　目を閉ぢて暫らくの辛抱が大切移轉旅行凶

新しき土 (獨逸版)
二十日ヨリ上映
平館

廣告

火災復興に三ケ月間を要した大和田印刷所は愈々出來上りました、全部が最新式のポイント活字です、斷然地方唯一であります、多少にかゝはらず一度御下命の上御試驗下さい。價格は安く、速くそれで出來榮は上々に努力致します
電話は從來五五五番でしたが今回の新設電話にあたつて最もエンギのよいシチフク神の七福
七二九番
平町仲町二十三番地
大和田印刷所
磐城之實業社
大和田與兵衛

▽新設御知せ△
電話五五五番
右電話は今般白銀町加藤營業所殿より讓受け本日より開通致し候に付何卒御利用の程願上候
平町才槌小路一
相互扶助機關　石城中小商工互融會

電話新設
七三六番
福島縣平町鍛冶町一八
債券　公債　賣買　貸付
日本商事株式會社
平支店